



「多久から発信！SDGs 43」

「多久と腰鼓」

ぼくは5年生から腰鼓の練習を始めました。最初は、練習時間が長くて大変だった。なんで腰鼓の練習をしないといけないのだろう？と思っていました。でも、6年生に教わりながら練習を続けているうちに「ぼくたちが伝統を受けついでいかなければいけない」と考えるようになりまし。伝統を受けつぐことが多久市をよくしていくと思うからです。

腰鼓は多久市の魅力の一つです。それがなくなると多久市の魅力が減ってしまいます。練習は大変ですが、腰鼓をすることによって昔の文化に親しむことができます。そして、伝統をつむいでいくことができ、その大切さをかみしめることができます。

秋の収穫では、ぼくたちが6年生に教えてもらったように次は5年生に腰鼓を教えます。腰鼓を大切に思い、伝統をつむいでもらえるように一生懸命教えたいと思います。



東原摩舎西溪校 6年1組
深町 奏輝

連載

多久市の指定文化財(3)

川打家住宅(国重要文化財)

西多久町板屋六二〇番地一

伊万里・多久間の旧街道(伊万里往還・現県道)に面したいわゆる「くど造り」の古民家であり、指定当時の所有者名から川打家住宅と呼びます。もとは現在地より東の「女山宿(現在の宿地区)」に所在しましたが、文化財の保存環境向上のため、平成10年から12年にかけて現在地に移築復元し、現在は般に公開しています。

くど造りとは、佐賀県の南部を中心に広く分布した屋根をコの字に曲げた形式の民家で「かまど」に似ることから方言の「くど」が名前の由来です。

(教育振興課)



▶建物背面(裏) 側からみた川打家住宅



▶(住宅内部) ザシキと屋根小屋組

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆ 散りしきる沈丁花を眺めつつ
掃くには惜しき今朝のわが庭
川浪 信子
- ◆ 朝陽あび新緑に映ゆる聖廟よ
雅楽の音色が心にしみる
梶原恵美子
- ◆ 平和の碑に集える人も年経りて
我も人世の端にて祈る
尾形 節子
- ◆ そうだよな大切なのは愛なんだ
同じぬくもり感じて生きる
野崎 隆幸
- ◆ こだます「ゆうやけこやけ」のメロディは
遥けさかの日われは花摘む
浦野 嘉恵

俳句 《大石ひろ女選》

- ◆ ものの芽のきのふよりけふ丈伸ばし
武富 律子
- ◆ 日溜りに爺婆寄りて春惜しむ
本村 則子
- ◆ 玲瓏と水琴窟に五月来る
富樫 明美
- ◆ 辛夷咲くまさをなる空ひとりじめ
三塩不二子
- ◆ 過ぎ去りし日ふところに青き踏む
大石ひろ女

川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆ 名所よりトイレは何処かバス旅行
松下 修
- ◆ 似顔絵は美人に描いて俺の妻
井上 東子
- ◆ 達筆と感心するが字は読めぬ
西山 残月
- ◆ 娘の嘘を見抜いた母の苦笑い
大谷 和
- ◆ 母の日は自己採点のいいチャンス
小副川ヨシエ